



遠大勵志

高校生フォトコンテスト

【12月12日岩手日報】

第26回高校生フォトコンテスト(県高文連後援)の「自由課題」には、県内8校の60人から112点の応募があり、岩手日報社で審査した結果、5点の入選が決まった。

上位作品は来年1月10～17日の午前9時～午後6時、盛岡市大通の岩手教育会館に展示する。入場無料。

【3席】「少年」

齊藤愛琉(黒沢尻北2年)



(選評)明暗の対比で、不安や葛藤が入り交じる少年の心を表現した。露出を切り詰めてローキーにし、物語性を醸し出している。白黒写真でも良かった。「救い」を表現している瞳のキャッチアイが、ちょっと弱いと思う。友人らと議論してみてもどうか。

【4席】「水中から見上げた景色」

吉田悠馬(黒沢尻北1年)



(選評)モミジを浮かべた水槽越しに撮影し、岩手公演の空堀にあたかも水があるように表現したユニークな作品。モミジと石垣、青空、雲、渡雲橋、人物と、全ての要素がうまく納まっている。色収差で輪郭がにじんでいるのもイカメラのような面白い。

【2次審査通過作品】

- ・「祭囃子」渡辺穂香(黒沢尻北2年)
- ・「秋の葉」野村朋花(黒沢尻北1年)

2020年度

岩手大学入学者選抜

インターネット出願へ

岩手大学は12月11日にHP上で、2020年度入試から一般選抜(前期日程と後期日程)においてインターネット出願を全面的に導入する予定であることを発表しました。HPでは、これに伴って従来の紙による願書および学生募集要項の冊子を廃止し、WEBサイトでの公表のみとなる予定であると書かれてありました。詳細は岩手大学のHPをご覧ください。

第2学年きたかみ世界塾

12月7日(金)7時00分に、東北学院大学地域共生推進機構の菊池広人特任准教授に来校いただき、黒陵会館で2年生のきたかみ世界塾が行われました。



この世界塾、1年生では地域に視点をおいて考えたことを踏まえ、2年生では「自分が探求したいこと」を整理し、それが地域・社会・世界とどのようにつながるのかを考えることとしています。2年生の前半では、まとめとして自分が探求したいことを文化祭でポスター発表し、カテゴリーごとに発表し意見を交換しました。後半は自分が探求したいことを、地元だけではなく世界とのつながりまで広げ、世界共通のSDGs(持続可能な開発目標)のターゲットに照らしあわせ、より具体的にイメージすることを最終目標にしています。

冬季休業中の時間等も使い、ワークシートを完成させ、最終的には学年全体で共有する予定です。この探求活動を通



して、自分の進路について考えが深まり、学習へのモチベーションも高まっています。

新語・流行語大賞年間大賞

「そだねー」

11月に発表された流行語大賞2018ノミネート30語の中から「そだねー」が選ばれました。

選考委員の言語学者・金田一秀穂さんは、「「そだねー」がいちおしである。何より作られた言葉ではなく、自然に生まれた言葉であるので、わざとらしさが無い。当たり前の心がこもっている。北海道アクセントの温かみがある。地についている。スポーツ選手の言葉なのに、気合や根性とは遠く、誠実でありながら、あくまでもほんのりとやさしく穏やかである。今の日本が必要としている清潔感に満ちている。」と絶賛しています。

何となくせわしげな今の世の中にあって、オリンピックで銅メダルを獲得した女子カーリング選手のみなさんが口にした「そだねー」や「もぐもぐタイム」という言葉が、私たちが妙にほっこりとした温かい気持ちにさせてくれました。私もテレビの前に釘付けでした。相手を受容する「そだねー」という言葉をともしれば、私たちは日頃忘れてしまいがちかもしれません。相手や仲間を尊重しながら、物事を進める際の大きな示唆をもらった言葉に感じます。

水難救助全国に挑む

【12/12 岩手日報記事】

盛岡ライフセービングクラブの小中高生7人は、15、16日の両日、東京都世田谷区で開催される第6回全日本ジュニア・ユースライフセービングプール競技大会に出場する。盛岡市開催だった第1回から6大会連続出場。前回大会は個人種目で3人が表彰台に上がるなど確実に力を伸ばしており、今大会でも上位入賞が期待される。

大会は全国から17チーム、小中高生の計約280人が出場予定。水中に沈められた重さ40キログラムのマネキンを引き上げて担いで泳ぐ「マネキンキャリー」や、水上に設けられた壁を潜り抜けて泳ぐ「障害物スイム」など個人5種目と、団体(4人)リレーの2種目がある。25メートルプールで、いずれもタイムを競う。

出場するのは、櫻田樹さん(黒沢尻北高3年)ほか6人。(本校生徒のみ抜粋記載)。学校の部活と両立する選手が多く、月に2、3回週末、盛岡市などで練習している。現在、マネキンの運び方や水をかく手の角度などを確認し、本番に向けて最終調整に励んでいる。(抜粋)

決定！！今年の漢字

「災」

12日、日本漢字能力検定協会が、京都市の清水寺で「今年の漢字」を発表しました。漢字検定協会の発表では、応募総数は19万3214票。「災」は2万858票とのこと。

その理由として、西日本豪雨災害、自然災害、北海道の地震、仮想通貨の流出、パワハラなどの人災が挙げられたそうです。来年は、穏やかで平和な世界であって欲しいと願うばかりです。来年のスタートに、3年生のみなさんは、センター試験があります。素晴らしい1年のスタートダッシュができるように、頑張りましょう！頑張り！！黒陵生(^*▽^*)